１１月１０日、街中の教会から弔鐘が幾重にも響く氷雨の午後、故マルッティ・アハティサーリ元大統領の国葬に参列しました。

国葬はヘルシンキ大聖堂にて、おごそかな雰囲気の中、ニーニスト大統領はじめフィンランド各界の代表の方々、各国大使たち等が出席し行われました。

国葬儀の間、大聖堂のまわりには大勢の市民たちが集まり、故アハティサーリ元大統領がフィンランドで如何に尊敬され敬愛されていたかが窺われました。

日本との関係でも、同元大統領は二回の公式訪問に加えて、２０１１年の私的訪日時には東日本大震災の被災地を訪問、大きな困難に直面した日本の人々に寄り添い励まして下さいました。本日、私は日本国を代表してそうした元大統領の国葬に参列できて光栄でした。

故アハティサーリ元大統領はコソボやインドネシアのアチェなど、世界各地における紛争の解決のために国際平和交渉や調停活動で重要な役割を果たされ、ノーベル平和賞を受賞しました。

昨年、ヘルシンキである国際会議が開催された時、初日の内輪の夕食会が郊外の小ぶりで簡素な建物で開催されました。それは街の中心から車で約１時間かかる、目立たない森の中にありました。とは言え、家の中の調度はとても上品に整えられ雰囲気が良かったので、私がいぶかっていると、フィンランド外務省の担当の人が、「ここはこうした内輪の会合を行う場所なのです。公表はしていませんが、かつて、アチェ和平の交渉にも使われました。」と教えてくれました。今から思えば、きっと、故アハティサーリ元大統領が懸命に調停活動

を行った現場だったのでしょう。

ここで、現在、ウクライナ、中東で起きている出来事に目を向けると、心を痛めない人がいないことはもちろんですが、同時に、この先の世界の行方に不安を覚える人も少なくないでしょう。こうした時にこそ、故アハティサーリ元大統領のような方が現れて事態の転機となる働きをしてくれればと思われます。ですが、あいにくそうしたヒーロー登場の見込みは薄そうです。

１０年近く前、「夢遊病者たち（Sleepwalkers)」という、第一次世界大戦がいかにして始まったかの研究書が広く読まれました。今日の社会において、人類は生成ＡＩ、量子コンピューター、ナノテクノロジーなど驚異的な技術を開発・活用する英知を発揮しています。その英知は、２１世紀に新たな「夢遊病者たち」出現を許さないようにも用いなければならないでしょう。

２０２３年１１月

駐フィンランド日本大使　藤村和広

〇美しく落ち着いた１１月初めのヘルシンキ